



## 一陽来復の天を待つ



高峰小学校長 井上真彰



明後日の夜はクリスマスイブです。きらびやかなイルミネーションを見るとやはり心が躍ります。

この時期になると、今も「手編みのセーターなんて恥ずかしくて着られなかったのに…」と母があきたようにつぶやいた事を思い出します。聞けば、戦後しばらくして機械編みによる大量生産が可能になった頃、人々はその均一な編み目に驚嘆し、機械編みの製品をこぞって買い求めてそのきれいな仕上がりに感激したそうです。なので、その頃は不均一な編み目や毛糸の継ぎ目、模様の飛び等で手編みと判るセーターを着るのは恥ずかしかったのだそうです。今なら不均一な編み目や毛糸の継ぎ目もたとえ模様の飛びがあったとしても、それを手編みの証拠として好意的に受け止めるでしょう。

30年以上前、私が新採用だった頃、まだ職員室にパソコンはありませんでした。その代わりに、文書の作成に特化した製品としてワープロというものがありました。先生方はほんの数行分しかない小さいモノクロ画面をのぞき込むようにして文章を打っていました。印刷された文書を見て、その頃感じた印象を今でも覚えています。「どんなに中身のない文章も、活字になると良い内容であるかのように見える…」まだ活字の印刷物は本や雑誌、新聞などしかなく、その他は手書きが主流でした。活字になっていること自体が内容に保証を与えていると感じる時代だったのです。それから長い年月が経ち、最近また驚かされました。明朝体やゴシック体とその派生字体等しかなかった活字に、なんと手書きを模した字体が登場したのです。それも俗にいう「ヘタウマ」文字でした。長い年月をかけてやっと手書きから脱却して、誰もがきれいな文字で文章を起こせるようになったのに、なんと30年かけて手書き様の字体に回帰したのです。ニュース映像ではそのような背景を知らない世代が「手書きっぽさがかわいい♪」とか、「味があっていいですね」と言っていました。

他の動物に先駆けて人類がここまで進化したのは直立歩行により手が空いたことが理由の一つだと言われています。指を使って物を作るようになり、急速に脳が発達しました。そして気の遠くなるような時間と労力を費やして地道に技術革新を積み重ねてきた結果、今は実にいろいろなことが自動化されました。先人のたゆまぬ努力の結果です。

でも、さすがに話し相手は自分の興味関心に基づいて自ら情報を集め、それを取捨選択した結果として自分なりの意見を持つに至った生身の人間の方がいいですし、写真はたとえ目をつぶっていても横を向いていても、それがその瞬間の真実です。自分好みにアレンジしたAIと話をしても、全員がこちらを向いて笑っているように修正した写真を見ても、虚しさが残るだけのようになります。

これからは発表当初は革新的ともてはやされた玉石混交の技術の中から、次善の策としては良しとされるものだけが使われ続け、長い目で見て人類の衰退につながりそうなものは自然に淘汰されていく時代になるのかもしれませんが、それを身をもって実行するのは、今私たちの目の前にいる子どもたちの世代なのでしょう。

高峰小学校は地域と共にある学校です。これからもご支援とご協力をお願いします。

### 町探検に行きました

2年生はこの時期、地域の様々な場所を訪問して地域の場所や人に親しみを持ち、適切に接しながら安全に気を付けて生活できるようになるために町探検を行っています。今回は「たまのや」さん「土門」さん「FLEX LION」さん「愛川町図書館」さんを訪問し、働いている方々から直接お話を聞いて地域への理解を深めました。



## 教育委員視察がありました

愛川町の教育委員さんは、毎年計画的に町立小中学校9校の視察をされています。本校には11月28日に来校されました。ちょうどロング昼休みの時間に到着されたので、まずは校庭で元気に遊ぶ子どもたちの様子を見て戴きました。その後これまでの教育活動を振り返る映像を流しながら学校経営方針や学校の現状等を説明しました。校舎内を回って教室で熱心に学ぶ子どもたちを間近に見て、メリハリある学校生活を送る子どもたちの様子に安心されたご様子でした。



## 看護学生実習がありました

厚木看護専門学校の学生による実習が11月20日からありました。前半の3人は2・4・6年生の教室で、後半の3人は11月27日から1・3・5年生の教室で3日間を過ごして子どもの理解を深めました。子どもたちも印象に残ったようで、「〇〇先生、また来ないかな〜」「校長先生、また来てくれるように言って!」としばらくの間お願いされました。写真は保健指導の授業を行っている場面です。



## ボランティアランチミーティング

高峰小学校の学区内にある地域の子どもたちを応援する団体を束ねている「地域学校協働支援本部」が主催するランチミーティングが11月30日に開催されました。毎週金曜日の朝にお世話になっている「おはなしぱれっと」の皆さんを始め、花植えボランティアの皆さんやカヌー教室を主宰している応援隊の皆さん、登下校の見守り活動の皆さんなど、総勢14名の皆さんが参加されました。子どもたちの授業の様子を参観して、給食を試食しながら親睦を深められていました。



## 車椅子バスケットボール体験

基本的な人権尊重の原則を定めた世界人権宣言は、1948年（昭和23年）に行われた国際連合の第3回総会において採択されました。採択日である12月10日は「人権デー（Human Rights Day）」と定められており、この日を最終日とする1週間（12/4~12/10）を人権週間としています。本校では12月1日に相模原市にあるけやき体育館を拠点として活動している車椅子バスケットボールチーム「SAGAMI FORCE」から講師をお招きして、5・6年生を対象に人権福祉教育の交流的活動を行いました。子どもたちは競技用車椅子で実際に試合を行い、障がい者スポーツへの理解を深めました。



## 紙漉きを行いました

本校の卒業証書は卒業生が自ら漉いた愛川町伝統の海底和紙（おぞこうわし）を用います。12月14日に半原にある愛川繊維会館（レインボープラザ）で6年生が紙漉きを行いました。漉き舟に貯めた水の中に溶けているのは和紙の原料となる楮（こうぞ）という植物の繊維と、水中で繊維を均一に拡げる役目をする「ねり」（トコロアオイという植物の根の抽出物）です。この「ねり」がとても温度の上昇に敏感で、15℃前後の水温で役目を果たさなくなります。そのため、厳冬期に屋外で行いますが、自分の卒業証書になるのですから手を抜けません。凍えながらも腕まくりをして冷たい水を張った漉き舟に箕簾を沈める作業を何度も繰り返し、自らの卒業証書の台紙となる校章の透かしが入った立派な和紙を完成させました。



## お知らせ

- 保護者の皆さま、地域の皆さま、今年も大変お世話になりました。良いお年をお迎えください。3学期は1月9日から始まります。

随時更新しています。  
ぜひ、ご覧ください。



ホームページ



ブログ

